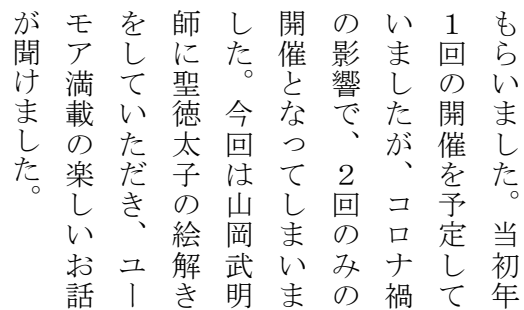
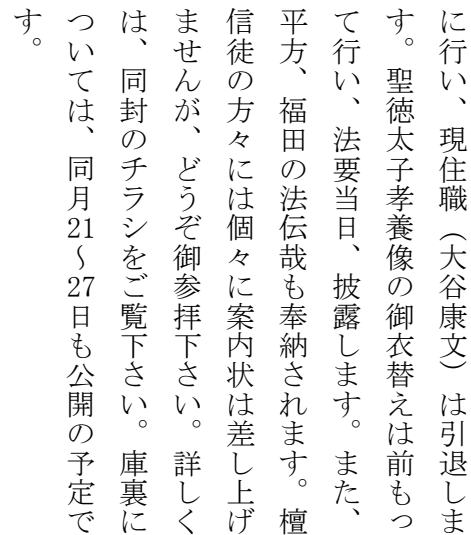


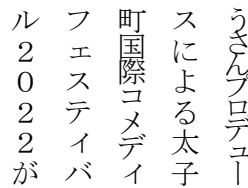
写真は書院上部の写真です。わかりにくいのですが、右と左では質感が違います。今回の修復では、可能な限り、現状を残す方針から、上之間、中之間、次之間の土壁の一部を修理前の状態のまま保存しました。全て、新しくすることは簡単ですが、一部でも古い形式が残っていると、百年二百年先の修復時に役立つはずです。



11月20日（日）聖徳太子一千四百年御
 聖忌、庫裏落慶法要を厳修します。また
 新住職（前岡靖文）就任の晋山式も同時



四天王寺の山岡武明師をお招きして仏教講演会を10月16日開催しました。令和元年に法隆寺の大野正法師にお話をして



フェルメール作
「真珠の耳飾りの少女」

西洋絵画の顔料は青色が大変高価でした。赤色が弁柄（天然酸化鉄赤）や辰砂（硫化水銀）を用いていたのに対し、青色は天然のものは少なく、貴石のラピスラズリを精製したウルトラマリンを使っていました。そのため金より高価で、画家も自由には使えなかったようです。

「真珠の耳飾りの少女」に代表されるフェルメールのフェルメールブルーが有名ですが、裕福な叔母の存在があつたからともいわれます。

12月3日(土) あすかホールにて太子町主催による「聖徳太子没後1400年記念シンポジウム」が開催されます。当日は基調講演として法隆寺管長古谷正覚師が「聖徳太子の心と信仰」と題してお話されます。パネルディスカッションや

現在発売中の「Ban
Cul（バンカル）」
秋号で聖徳太子と
播磨が特集されて
います。私（住職
大谷）の拙文も掲
載されていますの
ってご覧下さい。



1400年を迎えるにあたり、太子の教えを守るため、みんなが輪（和）になって、ふるさと太子を盛り上げるプロジェクトです。